

長岡工業高等専門学校から セミナー・講演会のお知らせ

(お申し込みは、期日までにお名前、所属、連絡先を明記の上、E-mailでお申込みください。)

ワーク・ライフ・バランスセミナー

「長時間労働当たり前社員が、
残業ほぼなし生活になったら、
人生がいかん変わってきたか」

日時：12月3日(木) 15:00~17:00
会場：長岡高専 第1会議室 (1号館中央棟3階)
対象：若手男性教職員・社員 (女性も可)

ファザーリング・ジャパンにいがた **吉田健太** 氏

申込：11月30日(月)までに gender@nagaoka-ct.ac.jp へ

2020年12月3日(木) 15:00~17:00

会場：長岡工業高等専門学校 第1会議室(1号館中央棟3階)
対象：教育機関・企業等の若手男性教職員・社員
テーマ：ご関心のある女性教職員・社員の参加も歓迎します。

講師：吉田 健太 氏
ファザーリング・ジャパンにいがた
新潟市ハピサクル代表
株式会社ビジネスブレイン 働き方改革推進室長
㈱ワーク・ライフ・バランス 認定コンサルタント

【講師 Profile】
自身の自己研鑽でシナジーライフへ、
男女共同参画社会の実現に向けた男性
の働き方を見直し、ワーク・ライフ・
バランスの推進と、働き方の家庭内相
互理解の向上を目指して自身の働き方
について考えてみませんか。

【講師 Profile】
前職、主にITチームの部長や役員に携わる。やりがい
感やワーク・ライフ・バランスを重視するも、反対に家庭との
関わりは薄れていく。長男が小学校2年生の時、妻への
家事育児負担もMAXに。その後、ワーク・ライフ・
バランスの重要性に気づく。現在は、総合人材サービスの本社ス
タッフとして「人」に関わる幅広い業務をこなす。又、
ファザーリング・ジャパンにいがた、新潟市ハピサクル
代表、個人としての活動など、複数のシナジー効果を
実感しながら日々活動している。

女子学生対象ロールモデル講演会

「技術者として、地元企業で働く」

日時：12月8日(火) 16:10~17:10
会場：長岡高専 440講義室 (4号館4階)
対象：長岡高専、長岡技大の女子学生・大学院生・
研究員 (男子学生の参加も可)

TDKラムダ株式会社 **大桃夏子** 氏
ユニット電源開発部

申込：12月4日(金)までに gender@nagaoka-ct.ac.jp へ

2020年12月8日(火) 16:10~17:10

会場：長岡工業高等専門学校 440講義室(4号館4階)
対象：長岡工業高等専門学校女子学生(4年生以上)
長岡技術科学大学女子学生・大学院生・研究員
※低学年、男子学生の参加も可能です。
本事業関係者、男性の参加も歓迎します。

講師：大桃 夏子 氏
TDKラムダ株式会社
ユニット電源開発部

【講師 Profile】
長岡市出身。
長岡工業高等専門学校電気工学科卒業後、
TDKラムダ(株)へ電気系開発職として入社。
結婚・出産を経て、現在は機械系開発職として
育児休暇中。

どんな道で技術者になったの？
技術者として地元企業に就職して、
結婚・出産・子育てを経験した
企業で活躍する先輩から体験談を聞き
自分の未来をデザインしよう！

ダイバーシティ実現に向けて 新たに2機関参画



新潟工科大学
新潟県柏崎市に1995年設置された私立大学で、
キャッチコピー「企業がつくったものづくり大学」
として知られています。



株式会社ブルボン
同じく柏崎市に本社を置く大手菓子メーカー。
「おいしい笑顔の真ん中に」、「おいしさ、思い
やり、いつもいっしょに」をキャッチフレーズ
としています。

協力機関10機関になりました。

協力機関(11月現在)の皆様です。
長岡市、日本政策金融公庫長岡支店、
北越コーポレーション株式会社研究所、
ソリマチ株式会社、株式会社ソリマチ技研、
クリーン・テクノロジー株式会社、長岡造形大学、
新潟県電子機械工業会、新潟工科大学、
株式会社ブルボン

事業所、団体等の皆様のご参画をお待ちしています。

【編集発行】 長岡技術科学大学 男女共同参画推進室
ダイバーシティ研究環境推進部門(3機関連携事務局)
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
TEL: 0258-47-9911 (内線9911・2170)
Email: danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp

【編集後記】 ダイバーシティ事業の協力機関であります長岡市の磯田市長より巻頭のご挨拶を
いただきました。多様な個性と能力を持つ若者が定着し、子育てをしながら働き続け
られる町づくりを共に進めていきたいと思います。まずは意識改革を図り、若者の
ニーズを受け止め、必要な支援を整えていきたいものです。(2020年11月)



SDGsが目指す、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある社会の実現に向けて



No.4

News Letter

令和2年11月発行

DIVERSITY



ダイバーシティ 2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

ご挨拶

「米百俵の故事から150周年
女性をはじめ多様な若者が挑戦し、活躍できる長岡市へ」

令和元年度から長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イトラストの連携3機関が進める文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業に協力機関として参画しています。長岡市は将来の人口減、活力減が見込まれる社会状況において、若者を地方創生の主役に据えた長岡版総合戦略を策定し、次の世代に投資する政策を積極的かつ戦略的に進めています。特に「若者自身が参加、企画、実現し、魅力を生み出すまちづくり」「未来の長岡を担う子どもたちを育てる質の高い教育環境づくり」「頑張る企業の事業展開を支援するとともに、新たな起業・創業や企業誘致を促進することによる働く場の確保」が大切であると考えています。

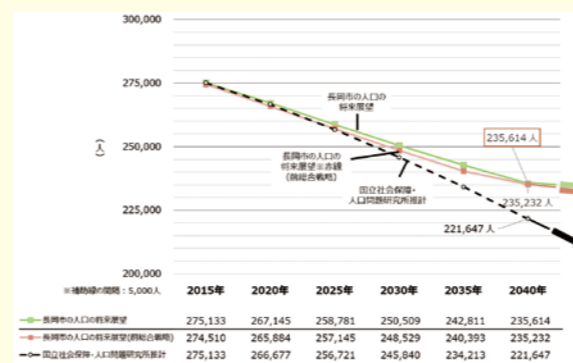


図 長岡市の人口の将来展望



協力機関 長岡市長 磯田 達伸

連携機関・協力機関の女性研究者・技術者による研究交流会2020

「工学と異分野 そしてダイバーシティ」へのお誘い **無料**

日時：12月23日(水) 15:00~16:30
ポスター発表 (12月21日(月)~25日(金) 要申込)

※視聴にはインターネットに接続できるパソコン環境(タブレット、モバイル端末も可)が必要で、Zoomアプリをインストールする必要があります。またZoomによる視聴のために特別なアカウント登録などの必要はありません(通信料はご自身の負担となります)。

会場：Zoomによるオンライン配信 **お申し込みは12月18日(金)までに danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp**

対象：連携機関の教職員(申込不要)、協力機関の教職員、学生

講演 **女性エンジニアの能力を引き出す
プラスアルファの異分野からの学び**

奈良工業高等専門学校
女性エンジニア養成推進センター特命教授

あらやちやこ
顯谷智也子 氏



プロフィール
大学卒業後、シャープ株式会社に入社。
CADソフトウェアの開発を皮切りに、
マネージャーとしてスマートフォンなどの
ソフトウェア開発に幅広く従事。
現在、奈良高専特命教授、経営学修士
(MBA)

表彰式

第1回優れた女性研究者賞

研究交流発表 こんな研究をしています。コラボしませんか。

1. 「フェムト秒レーザー還元描画」パターンの大気中表面酸化処理とマイクロセンサ作製への応用
長岡技術科学大学・准教授 溝尻 瑞枝
2. 「Arts-Based Researchの理論と実践」
長岡造形大学・准教授 小松佳代子
3. 「光MOD法による磁性ガーネット薄膜の低温作製」
長岡技術科学大学・准教授 西川 雅美

ポスター発表同時開催：竹内麻希子(長岡工業高等専門学校・准教授)、山本麻希(長岡技術科学大学・准教授)

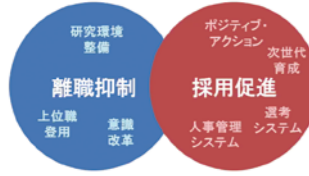
「成長戦略としてのダイバーシティ～女性活躍推進の効果と成果～」

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) プログラム主管の山村康子氏と長野県内で最も女性活躍を推進している企業の一つであるエムケー精工株式会社 (長野県千曲市・製造販売業) 代表取締役社長 丸山将一氏を講師にお招きしました。大学・高専・研究機関19機関、企業・法人10社、行政3機関、一般の方を含め約120名の参加がありました。

講演のポイント

「女性研究者を増やすために～好事例から学ぶ～」
山村康子氏

女性研究者を増やすために
多様な視点や発想を取り入れ
科学技術イノベーションを活性化



- 採用促進と離職抑制の両面からの取組が重要
- 具体例
 - ・教員選考過程への女性の参画
 - ・一つ上の職位で採用するOne-Up公募制度
 - ・研究支援者の配置・夏休み中の学童保育など

「女性活躍で大変革 次世代リーダーの働き方改革」
丸山将一氏



- 業績が伴わない意識改革は難しい
- 意識を変えるには“とことん言い続ける”
- トップダウンとボトムアップのハイブリッドで推進
- 従業員の声を踏まえた“働き方改革”を!
- 率直な意見を出せる女性社員の座談会を実施
- 急激な人口減少の中新卒採用は大変
企業イメージを上げると優れた人材が集まる
新卒採用のエントリー数が5.4倍になった

博士後期課程進学セミナー(ロールモデル講演会) 10月28日

「工学研究者になった私～OGが語る学生時代から今までのアレコレ～」

学生15名(長岡技大女性4名、男性2名、高専女性2名、男性7名)、教職員21名(女性15名、男性6人)参加

「私の経験談(高専時代から現在まで)」

私の進路を決定した言葉

「今、何に興味がありますか!」

福岡工業大学 工学部 知能機械工学科 山岸里枝准教授

富山高専の4年生の頃、就職か進学か迷っていた時に、「長い人生の2年間なんて誤差のようなもの。今しか出来ない体験を沢山しなさい!」と言われ、長岡技大の新素材開発の記事を見て長岡技大に進学を決めました。修士2年の時、就職活動をしましたが、「今、興味あること」を改めて考え、今の取組を最後までやり遂げようと思い、進学を決めました。現在、放電加工やレーザー加工における現象の可視化に取り組んでいます。これは加工原理を明らかにするために必要な研究課題の一つであり、常に世界初の撮影を目指して研究を行っています。

3年前に福岡工大に異動しましたが、夫は新潟県内で働いており、月に一度どちらかが会いに行く生活を送っています。

「博士後期課程の先にあるものは?」

「悩みは口に出せ!

いろいろな人に支えられて今の幸せがある」

群馬工業高等専門学校 物質工学科 大岡久子准教授

小さい頃から、学校の先生になりたいと考えていました。父から高専を勧められ、小山高専に進学し、「高専の先生になる!」と心の中で思い始めました。高専の先生になるには博士号が必要になると言われ、博士号を意識するようになりました。高専の先生になるなら全国の高専生が集まる技大がいいと考え、さらにバイオ系があり教員免許が取れる長岡技大に編入しました。博士後期課程では、「女の子がそんなに勉強してどうするの?」と言われることもありましたが、「高専の先生になるためには博士号が必要」と言うとも何も言われなくなりました。博士後期課程を修了し、久留米高専の教員に採用され、人事交流で小山高専に異動し、結婚・出産を機に群馬高専に異動しました。育児を通して社会貢献の大切さを実感し、これからも高専で社会に貢献できる学生を育てたいと強く思いました。

講師と参加者とのフリートーク

研究者になってよかったですか?(学生)

- 学会発表の機会があるので人脈が増えます。世界中の人と話ができる魅力的な職業です(山岸)。
- 新しいことが分かるのは楽しいです。自分の発想で自由にできるのは博士後期課程からです。学会で出会った子育てしている女性研究者から時短術など教えてもらい助けられました(大岡)。

その他

- 群馬高専で、ダイバーシティ推進室の副室長をやっています。男女の学生比率は8:2。男子学生も参加しやすいように、男性教員による焼きそば料理対決を企画し好評でした(大岡)。

全専攻等から准教授以下の研究者と学長、担当理事・副学長、事務局長等との懇談会を開催しました。23人中、女性が13人と約6割で、長岡技大としては珍しい新鮮な会議となりました。

概ねWLBは良好という人が多く、在宅で会議に参加できるので夕方の会議でも助かっている。これを続けてほしい、という声がありました。

男性研究者から、妻は専業主婦ですが体調を崩しやすいので、夕方の育児と家事が集中する時間に間に合うように17時のバスで帰るようにしている。その分、午前4時に起きて仕事をしている等時間を工夫している紹介がありました。

困っていることは、子どもが急に熱を出した時、授業があるので夫に頼みました。また、祝日は保育園に預けられないので困っています。関東に住む親に来てもらってなんとかやっています、との発言がありました。担当から、現在、支援制度を整えているところで、早急に開始する旨、説明がありました。

コロナ終息後も在宅勤務やリモートワークを継続してほしいという強い要望がありました。

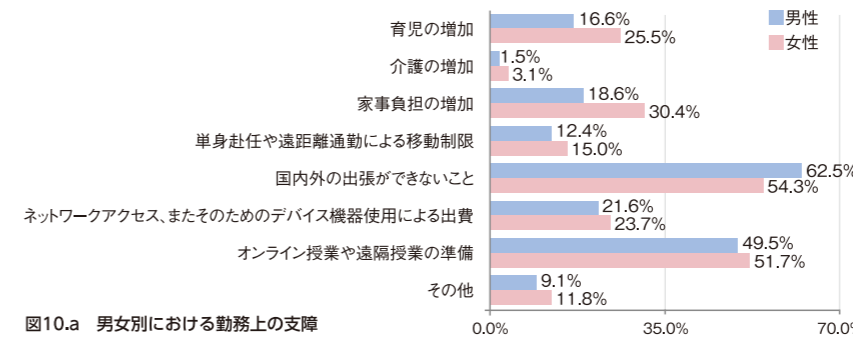


「緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査結果」

(令和2年5月15日～6月13日実施、計11,112名回答。男女共同参画学協会連絡会7月発表)

男女共同参画学協会連絡会(STEM分野における約100の学協会が加盟。2002年発足)は、緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態を調査し、研究者の環境改善に役立てるため、個人アンケート調査を実施しました。男女共同参画学協会連絡会に所属する学会の会員、および、社会・人文系学会など、幅広い専門分野に属する研究者・技術者が回答しました。一部を紹介します。

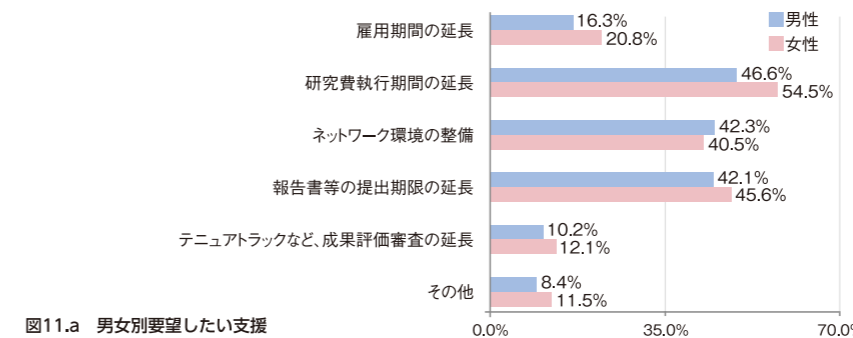
設問10 現状における勤務上の支障について教えてください(複数回答)と性別とのクロス解析



男女別における勤務上の支障

- 男女とも、出張の制限による支障が深刻である。
- 家事・育児の負担は男性より女性の方が特に多く選択している。

設問11 今回の状況において要望したい支援を教えてください(複数回答)と性別とのクロス解析



男女別要望したい支援

- 男女とも、研究費執行期間の延長が最も多く選択された。
- 雇用期間も含め、期間の延長を望む声は女性の方がより多い傾向にある。

学協会連絡会から国や研究機関への要望

1. 研究費の執行内容の柔軟な変更、使用期間の延長や報告書提出期限の延期などの迅速な対応。
2. 任期・契約期限付き職に関しては任期期間の延長を、学生や帰国を余儀なくされたものには雇用の支援策を実施。
3. ネットワーク環境の強化を行い、WEB会議やWEB学会を推進。
4. 在宅勤務の拡充を推進し、大学等の職場での各種手続きのオンライン化の推進。
5. 女性の家事・育児の負担増を解消するような意識変革の働きかけを積極的に推進。